

授業科目名	成人看護学援助論（急性期・周手術期）(2300212)		
時間割名	成人看護学援助論（急性期・周手術期）(44205)		
時間割担当	松浦純平		
実施期	後期	単位数	2 必修
曜日・時限	木・4		

授業の目標・概要

急激な健康破綻が対象者および家族に及ぼす様々な影響を理解し、適切な看護援助ができるように学習する。急性期、リハビリ期、回復期にある患者と家族への具体的看護方法を学ぶとともに問題解決能力を養うための学習を行う。

学習の到達目標

1. クリティカル・周手術期にある対象の生体反応や治療・回復過程の特徴を踏まえた看護を理解する。
2. 周手術期・急性変化によって起こる対象の苦痛緩和する看護を理解する。
3. 治療による身体機能・自己イメージの変化とともに生きていく患者を支援する看護を理解する。
4. クリティカル・周手術期にある対象に対する倫理的側面を考慮した看護を理解する。
5. 周手術期にある対象の事例を通して、健康上の課題を明らかにし、看護計画を立案・実施・評価する。

授業方法・形式

講義・演習

授業計画

- 第1回 クリティカル・周手術期看護概論
- 第2回 消化機能を障害された患者の看護
- 第3回 消化機能を障害された患者の看護
- 第4回 呼吸機能を障害された患者の看護
- 第5回 呼吸機能を障害された患者の看護
- 第6回 循環機能を障害された患者の看護
- 第7回 循環機能を障害された患者の看護
- 第8回 排泄機能を障害された患者の看護
- 第9回 排泄機能を障害された患者の看護
- 第10回 脳・神経機能を障害された患者の看護
- 第11回 脳・神経機能を障害された患者の看護
- 第12回 運動機能を障害された患者の看護
- 第13回 運動機能を障害された患者の看護
- 第14回 急性期看護技術演習
- 第15回 まとめ（補習演習10回追加）

成績評価の基準

定期試験70%、小レポート20%、授業への参加状況（ルーブリック評価）10%

授業時間外の課題

予習は必ず行って授業に参加して下さい。

メッセージ

既習の解剖生理、病態学の知識と関連付けながら積極的に学習に取り組み、学びを深めてください。

教材・教科書

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論、医学書院
 「ゴードン看護診断マニュアル 原書第11版 機能的健康パターンに基づく看護診断

参考書

適宜紹介します。